

アンケート実施し研修会開催 十勝ブロック

平

成25年度十勝ブロック研修報告「ニーズに応えた研修会開催」十勝管内にはグループホームが70事業所あり、管内介護サービスの中核を担っていると言っても過言ではありません。十勝ブロックでは平成25年6月から7月にかけて、認知症介護実践者研修・認知症対応型サービス事業管理者研修会を開催しました。これは事前に十勝管内各事業所に対しアンケートを実施し集計の結果、多くの希望が寄せられた研修会の開催でした。



研修会には十勝管内には留まらず北見・釧路方面からの参加希望も多数あり、実践者研修で85名、管理者研修で56名と予定の定員を大幅に超える参加への希望があり、両研修会の必要性を開催前より実感することとなりました。十勝ブロックでの両研修会は2回目の開催であり、研修運営経験者が少なく不安な気持ちもありましたが北海道認知症グループホーム協会の支援の下、協会または行政、医療関係、民間等から講師を招き、そして十勝ブロック事業所からの職員の協力もあり無事開催することが出来ました。

研修の目的である『認知症の方の介護に関わる専門的な知識や技術の習得を図り多様なサービス形態に対応出来る専門職を育てる』は、この研修会を通



し、我々専門職にとっては大きな課題ではありますが、更なる一歩を踏み出したのではないかと思います。また十勝の介護従事者のスキルアップと共に情報の共有、更に仲間作りにも大きく貢献できました。何より十勝管内でこの研修が出来たことに大きな意味があったのではないかと感じています。

研修参加者からは振り返りシートにより感謝の言葉等、様々な意見を頂きました。その中でも事例に基づいた話を多く聞きたいとの要望も強く、十勝ブロックとしては今後も『ニーズ(心)に応えた研修開催』が行えるよう取り組んでいきたいと思っています。

十勝ブロック

ちょっといい話 <ドイツ>電車内で女兒出産 お祝いに「生涯乗り放題」切符

毎日新聞 平成24年8月10日

生まれたての赤ちゃんが手にしたのは「生涯乗り放題」の鉄道切符。ドイツ鉄道は、走行中の電車内で8日に生まれた女兒に、記念として地元近郊鉄道を生涯利用できる特別乗車券の贈呈を決めた。独メディアは早朝の鉄道で起きた誕生劇を「小さな奇跡」と伝えている。女兒が生まれたのは独東部ライプチヒェンハレ間を走るSバーン(近郊鉄道)の電車内。8日早朝、妊娠中の女性が陣痛を訴えたため、乗り合わせた女性客2人がトイレに付き添い、分娩(ぶんべん)を助けた。午前5時半ごろ、元気な泣き声が響き渡り、女兒が誕生。電車は同5時41分にハレ駅に到着した。母子は病院に搬送されたが、ともに健康という。

編集後記

このところどうもよく忘れることがある。自分のものをどこかに忘れて困ることがある。忘れまいとするがこれが意に叶わない。大事なことは忘れまいとメモを取っておくようにしているがこれがうまくいかない。せつかく伝えてくれるその間も悪く、すぐに忘れてしまうこともある。周りの人はいい迷惑に違いない。そんな私に何もなかったかのようにやさしい言葉とものごでフォローしてくれることがある。泣きたくなるほど嬉しい。日頃の認知症支援の成すわざなのか。私が逆の立場だったら叱っていたかもしれないのに。周りから人として生きることへの支援は「こうありがたい」と教えられ助けられている。

編集後記とさせていただきます。 小原陽一

大空と希望



NO 9

一般社団法人北海道認知症グループホーム協会
広報誌「大空と希望」2014年3月発行
〒060-0001
札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル3F
TEL:(011)208-3320 FAX:(011)204-7312
URL http://h-gh.net

「私たちの仕事の本質」

最

『私たちの仕事の本質』

近、危惧していることがあります。それは、『BPSD』という言葉への無意識な依存です。それはこれまで私が、認知症の状態にある人の本質から目を背け、専門職の一方的な働きかけや対応で、なだめたり、だましたり、嘘をついたり、背けたり、欺いたり、都合良く興味をそらしたり、置き換えたり、気をそらしたりしてきたからだと思うからです。しかし、丁寧に掘り下げてゆくと、その人の持つパーソナリティに加え、その周囲で起きる様々な出来事や変化、更に認知症が伴う事で起こる中核となる症状とが複雑に絡み合い、その人なりに主体的に治めよう(生きよう)としている当たり前の言動(姿)として捉えることができるよ

うになってきました。

私たちの支援職の専門性は、その人の有する能力に応じて、自立した日常生活を主体的に営めるように支援することです。認知症の状態にある方々の主体性が最大限引き出され、地域も含めた様々な関係の中で活かされるよう支援していくことが、私たちの仕事であり、『認知症ケア』の本質ではないかと考えます。

一般社団法人 北海道認知症
グループホーム協会
会長 宮崎 直人

座談会5月26日(月)開催 (予定) 事業所基礎調査

当

協会の平成25年度の事業所基礎調査が終わり今、整理を行っているところですがこの基礎調査を受けて専門の先生や職員などの視点からの考察やご意見をいただき、より良い利用者サービスの確保や向上発展につながる機会としたいと考え座談会を企画をいたしました。



日時は来る5月26日(月)当協会の定時総会の日の総会前の時間午後1時から約1時間30分くらいを予定しております。座談会の出席者は早川先生、井出先生、宮崎会長、皆さんとの意見交換も予定しております。



<目次>

私たちの仕事の本質・・・1p
道南ブロック・・・2p
空知ブロック・・・2p
道央ブロック・・・3p
事業所基礎調査・・・4p
札幌ブロック・・・5p
研修予定と開催都市・・・6P
事例発表北海道大会in旭川・7P
十勝ブロック・・・8p



介護福祉士国家試験受験対策講座 道南ブロック

道

南ブロックでは昨年度に引き続き、中央法規出版様のご協力を頂きまして、介護福祉士国家試験受験対策講座（舌噛みそう）を開催致しました。介護福祉士国家試験の受験要件が従来のままで行われるのは平成26年1月と27年1月の試験までというのはご存じのとおりです。そのためか、はたまた受験料を低く抑えた影響なのか定員を超える応募があり、お断りせざるを得ない状況にもなりました。27年の受験機会を逃すと一気にハードルが高くなります。もとい、高くなりすぎです。特に皆様のホームにもいらっしゃるであろうお仕事に従事しながら介護福祉士を目指す方にとっては、介護福祉士という資格が遠くなってしまふようになりません。今後は実務者研修（これが正式名称？名称から職業が全く想像つきませんが？）を修了することで介護福祉士の受験資格が得られるということですが、やはり費用面と対面授業の日数、特にその対面授業が近場で受けられるとは限らないという現実を考えると二の足を踏んでしま



う方が多いような気がします。今後はホーム側としても、今まで以上に勤務面への配慮など資格取得希望者への援助を行わなければ、実務者研修を受けることさえ難しいものと思います。函館でもなかなか大変なようです。話はそれでしたが、国家試験対策として10月に1回目の模擬試験。（これは腕試し感覚で受けた方が多かったようです）11月には講師の先生をお招きしてのポイント解説。（函館にこんな先生がいたんだというくらい今までの傾向を分析しておられました）そして忘年会シーズン真っ只中の12月14日に、忘年会どころではない方々が最終模擬試験に臨みました。さあ残すは試験本番です。たまには神頼み？もしてみたっていいじゃないですか。今回の試験で合格できた方も、あと一歩だった方も、そして次回に初めてのチャレンジをする方も。遠くから眺めているだけの時は、はるかに高い壁だと思っていたものは、近くに行ったら初めて実は自動ドアだったと気づくかもしれませんよ。まず壁を乗り越えようと思うことから始めませんか？



グループホームにおける見取り介護研修など 空知ブロック

空

知ブロック
今年度の空知ブロックの活動としては、
7月 RUN伴に10事業所参加
8月グループホームにおける見取り介護
磯医師

2月『ひもときシート』活用学習会 大久保幸積先生
(介護福祉士会との共催事業)

2月福祉施設事業所の雇用管理 高橋一穂先生
と開催してまいりました。

空知ブロックが掲げている会員事業所の職員同士の横の繋がりを大切に
する事業は今年度行えなかった事が残念です。次年度以降も研修だけではなく会員事業所の職員同士の横の繋がりを大切にしたいと空知ブロックの活動でありたいと考えております。



分かろうとする

言葉のないあなたの心の声を聞こうとする
言葉のないあなたの心の痛みを感じようとする
分からないかもしれない
でも私は分かろうとする
言葉や意味をこえて私はあなたを
分かろうとする

藤川幸之助

みんなで考える認知症事例発表北海道大会 in 旭川



『みんなで考える認知症事例発表北海道大会in旭川』が平成25年10月5日全道各地から500名近くの方が集まり、道北の地で盛大に開催することが出来ました。本大会開催にあたりご理解とご支援いただきました会員の皆様をはじめ、介護に携わる従事者、医療関係者、行政、一般市民の皆様にご心よりお礼申し上げます。

私

私たちは、日頃認知症の方々のその人らしい暮らしを支えながら、自分たちにできることは何かを常に考え模索し様々な取り組みを行っております。今回も各ブロックを代表してそれぞれの発表者が、熱い思いとレベルの高い実践事例を紹介していただきました。会場にお集ま



りの皆様、認知症ケアや地域との係わりの実践事例を見聞きすることにより、様々な角度で地域での自分たち自身の在り方を見つめ直し、認知症の方がより住みやすい社会を目指し、理解し、共感し、互いの心のつながり

を見つけ出す一歩となった方も多くいらしたと感じております。また基調講演では、レビー小体型認知症の権威小阪憲司先生をお迎えしてご高話を頂き、非常に分かり易く、明快な講演に、ご家族様等からも大きな反響がありました。

この大会は、道北ブロックと



して初めて開催される大きな大会であり、実行委員協力委員が中心となり、互いに信じ合い、大会を盛り上げ、成功させることが出来たことが大きな自信となったこと言うまでもありません。

今後もこの事例発表北海道大会が益々発展し継続的に開催されることをご期待申し上げます。

『みんなで考える認知症事例発表
北海道大会in旭川』実行委員会
実行委員長 森山伸広



実践者、管理者、実践リーダー研修 日程と開催都市(予定)

認知症介護実践研修 (実践者研修)

- 第1回(札幌市)
平成26年5月27日～30日及び6月19日
第2回(苫小牧市)
平成26年6月24日～27日及び7月17日
第3回(旭川市)
平成26年7月22日～25日及び8月18日

認知症対応型サービス 管理者研修

- 第1回(札幌市)
平成26年6月19日～20日
第2回(苫小牧市)
平成26年7月17日～18日
第3回(旭川市)
平成26年8月18日～19日

認知症介護実践研修(実践リーダー研修)

- 第1回(函館市)
第1週目平成26年5月12日～5月16日
第2週目平成26年5月19日～5月23日
報告まとめ平成26年6月30日
第2回(苫小牧市)
第1週目平成26年8月25日～8月29日
第2週目平成26年9月8日～9月12日
報告まとめ平成26年10月27日
第3回(旭川市)
第1週目平成26年9月29日～10月3日
第2週目平成26年10月6日～10月10日
報告まとめ平成26年11月17日

- 第4回(札幌市)
第1週目平成26年10月20日～10月24日
第2週目平成26年11月3日～11月7日
報告まとめ平成26年12月15日



日程等変更になる場合がございます。詳しくはHPをご覧ください。

その他の研修 日程と開催都市(予定)

- スタッフ研修(札幌市)
和田行男氏
平成26年7月11日
潜在力を引き出す介助と拘縮/予防の
アプローチ研修(札幌市)
田中義行氏
平成26年11月28日

- 計画作成担当者研修(札幌市)
平成27年1月16日(金)



「絆の会」毎年大運動会 道央ブロック

千

歳市では平成21年から地域密着型事業所「絆の会」を立ち上げて、毎年大運動会を行っています。初年度は7社の地域密着型事業所が集まり、利用者様・ご家族・スタッフ・地域のボランティアを含め約150名で開催しましたが、2年目以降は千歳市のほぼ全社にあたる12社が参加しています。プログラムは1、ラジオ体操 2、ボールリレー 3、パン食い競争 4、借り物競争 5、玉入れ 6、リレー・綱引き(ボランティア・職員)となっています。このうち、ラジオ体操・ボールリレー・玉入れは全員参加競技として、パン食い競争は車いすの方、借り物競争は歩ける方の競技として行っています。第5回目となる今年ご家族様はもちろんの事、福祉課の部長や、市議会議員、社協の会長や職員、病院の相談員・看護師、老人クラブ・町内会がボランティアで来てれて参加者約400名にもなりました。開会式が終わってラジオ体操で身体をほぐした後は、横一列に並んでボールリレーです。ボール・風船・ぬいぐるみ等が次々に送られてくるので慌てて途中で落っしやいしますが、毎年かなり盛り上がりです。パン食い競争は上手く取れず思わず手が伸びてしまう事も(笑)借り物競争は「美人な人」「かっこ



いい人」等が札に入っていて利用者様やボランティアの方が自己申告で借りられていくので、笑いが起きる事もしばしばです。玉入れはスタートの合図と同時に皆様大興奮。投げ入れるだけでなく、立ち上がった籠に直接入れる方も毎年多くいらっしゃいます。普段立ち上がる事が大変にされている方が、その時はすっ!と立ち上がられています。リレーでは利用者様のお孫さんや若い職員に混ざって、市議会議員や相談員さんは足がもつれながらも全力疾走して会場を沸かせていました。綱引きではボランティアの皆様は純粋に勝ち負けを喜んだり、悔しがったりしていたのが印象的です。ボランティアとして参加して下さっているご家族様は普段では見られない様子が見られて良かった・なにより楽しかったと後日話して下さいます。そして、参加して下さいました来年も参加したいと言って頂いた事が成功したと言えることだと考えています。



臭い

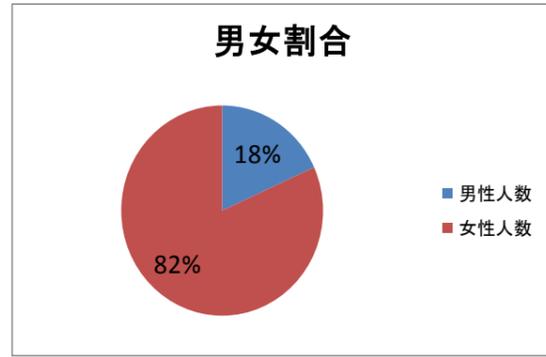
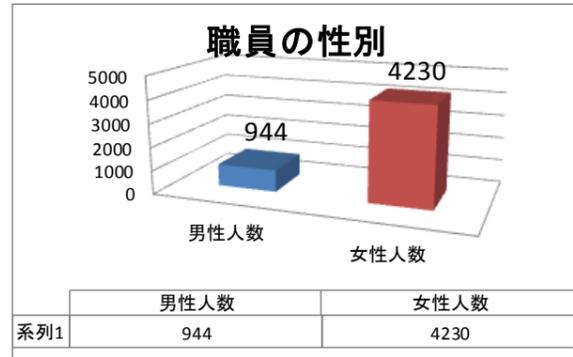
眠れず真夜中海に行った。海の臭いが鼻をついた。死んでいるのか生きているのか。明か暗か。不安なのか安心なのか。希望なのか絶望なのか。喜んでいいのか悲しんでいるのか。ゼロなのか無限なのか。愛なのか悪なのか。黒なのか透明なのか。真夜中の海はそんな臭いがした。翌日、母の胃に穴をあけた。母に無断で母の胃に穴を開けた。そこから直接、胃へ食事を入れるために。この管の奥には、母の胃の中の暗闇が、真夜中の海のように広がっているにちがいない。母がしっかりと私の手を握って離さない。今日から母の意志とは関係なく母は生かされてゆく。味わうこともなく、嘔むこともなく、飲み込むこともない自分が、なぜ生きているのか?そんな疑問も母にはわくはずもなく。「母さん手術ご苦労さん。今日から元気になって元にもどるぞ」顔を寄せて自分で自分を励ますように母に声をかける。「何言ってるんだ」と母がゴボツとゲップをした。口から臭う独特の臭い。真夜中の海の臭いがした。

引用著書「まなざしかいご」(中央法規)
著者 詩人 藤川幸之助

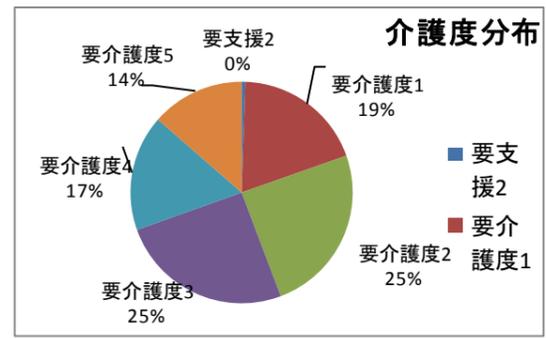
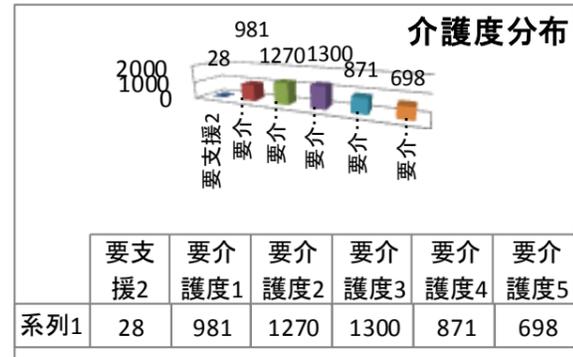


事業所基礎調査

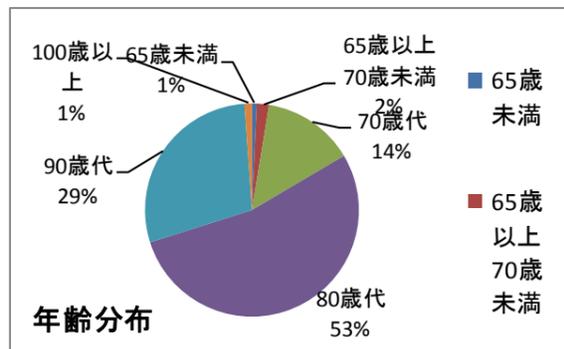
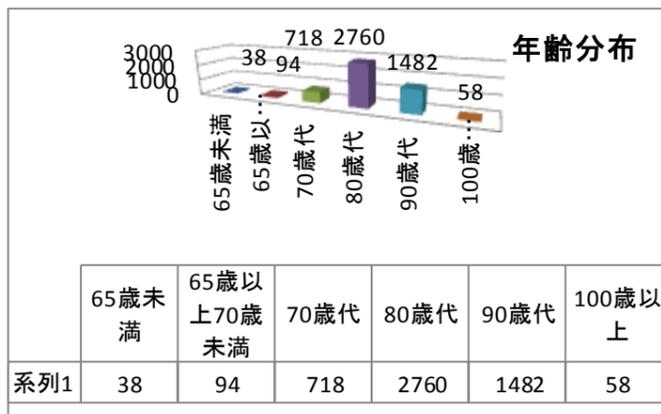
この調査は依頼時のご案内の通りすべてのグループホーム909件に出さしていただき324件（回答率35.6%）のご回答と貴重なご意見をたくさん頂きました、皆様にはほんの一部ですがご紹介したいと思います。この調査には皆様お忙しい中、丁寧にご回答くださりご意見等を率直に書いていただいたと感じております。ご協力いただいたことに厚く御礼を申し上げます。（事業委員会）



職員の性別人数男女割合は男性944人女性4230人男性は全体の18%女性は82%と女性がグループホームあるいはこの業界において圧倒的に多い現状が浮き彫りになっております。よって女性にとって働きやすい職場創りも大変大きな意味を持っているのではと思われます。



介護度分布においては要支援2：28名（0.5%）要介護1：981名（19%）要介護2：1270名（25%）要介護3：1300名（25%）要介護4：871名（17%）要介護5：698名（14%）となっている。要介護度4及び5は経年経過とともにその割合が上がっていると思われる。



年齢分布については65才未満38人（1%）70才未

満94名（2%）70才代718人（14%）80才代2760人（53%）90才代1482人（29%）100才以上58人（1%）となっております。

「癒されませんか」札幌ブロック自主研修会

札幌ブロック自主研修会
「癒されませんか」を終えて

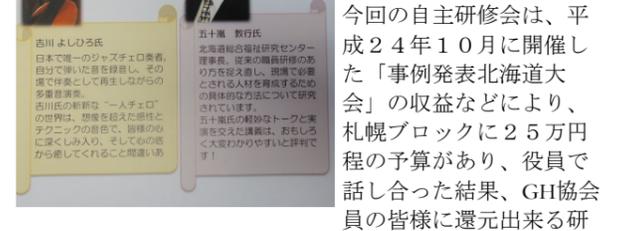
平成25年8月30日（金）札幌ブロック自主研修会「癒されませんか」が無事に終了いたしました。当日は平日の日中にもかかわらず、会場のホテルロイトン札幌に108名の方が参加下さいました。今回の研修会はコーヒーとクッキーが付いた2部構成とし、第1部ではチェロリストの吉川よしひろ様をお迎えしてのチェロのライブ演奏をして頂きました。参加された方々のほとんどの方がチェロの生演奏を聴くのは初めてな様子で、耳からだけではなく全身に響き渡るチェロパフォーマンスに魅了されている様でした。



また、休憩を挟んでの第2部では講師に五十嵐教行様をお迎えして「上手な傾聴のしかた」や「前向きな考え方」などの講話をユーモアたっぷりにされ、会場内では笑い声も聞かれてとてもリラックスした研修となりました。また、ご協力頂いたアンケートでは「こんな研修は初めてで良かった」「チェロの演奏に感激しました」などの書込みが多くありました。全体で3時間程の

研修会でしたが、参加された方々が充実した時間を過ぎた明日への活力に少しでもお役に立てれば幸いです。

この後同ホテルにて開催された懇親会では、宮崎会長、吉川よしひろ様、五十嵐教行様を交えての談話と参加者全員の自己紹介や、じゃんけん大会などで盛り上がった懇親会となりました。今回の自主研修会は、平成24年10月に開催した「事例発表北海道大会」の収益などにより、札幌ブロックに25万円程の予算があり、役員で話し合った結果、GH協会の皆様に還元出来る研修会を開催しようとなり、研修の内容は日頃お仕事でお疲れだろう介護職員の皆様方などに、ゆったりとした場所でお茶を飲みながらの研修会で日頃の疲れを少しでも癒して頂ければとの発案で、役員全員で開催当日に向け取り組んで来ました。次回も一工夫した研修会を開催出来れば良いかなと思います。



札幌ブロック 加藤浩志

必ず言いたい5つの言葉 誠意正心（せいせいしん）

人としてのあるべき姿
「誠意正心」という言葉をご存知だろうか。「その心を正さんと浴する者は、まず、その意を誠にす」など、出自となる『大学』では、いくつもの文節に登場してくる。「その意を誠にすとは、自ら欺くなきなり」とあるという。「意」は、意識や気持ちのこと。
心が動くことで、意を決することも、気持ちが変わることも、心は、そのもろ方次第で、「意」が変幻自在に移ろうもの。自らの「意」が「誠」であるならば、自らの気持ちを欺いてはいけない。その「意」がプレッシャーに弱ければ、利害関係者（ステークホルダー）との力関係などから「誠」を翻し、自らを欺く者も出てくる。
だから、心を正すのである。「正心」は、「身に忿懣する所あれば、則ちその正を得ず。恐懼する所あれば、即ちその正を得ず。好楽する所あれば、則ちその正を得ず。憂患する所あれば、則ちその正を得ず。心焉に在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえどもその味を知らず」とある。自身に腹の立つことがあれば、怒りや恐れに感情に突き動かされ、身も心も正しい状態を保つことなどできない。「誠意正心」の要素を備える人は、わが身を修めることのできる人であり、人として「あるべき姿（人格資質の本質）」がここにあることが『大学』に示されている。介護人材のあるべき姿も然り。

日常の五心

「心を正す」には、「日常の五心」に記された文言を日常的に使う習慣から始めるとよい。

- ハイと云う素直な心
- すみませんと云う反省の心
- 私がいまと云う奉仕の心
- おかげさまでと云う謙虚な心
- ありがとうと云う感謝の心



引用著書「99の言葉の杖」出版社（日本医療企画）著者 早川浩士（有限会社ハヤカワプランニング代表取締役）